

# 1 緒 言

人が自分の手で機械を操作するとか、工具を使用するなどによって物をつくる能力を技能といい、さらに、物を良くつくる能力を出来栄技能、物を速くつくる能力を時間技能、物を良く・速くつくる能力を総合技能ということにする。

また、技能が大きくなることを技能習熟、技能習熟のためにつくる行為を単に繰返すことを反復練習、技能習熟のための教育行為を技能訓練ということにする。

この研究の終局の目的は技能習熟の法則を見つけることにある。その法則が確立されると、技能に関するいろいろな問題が容易に解決できるが、逆に技能に関する本質的問題が一つ一つ解明されねばその法則は確立できないともいえる。

本報では、技能習熟の理論的考察及び旋盤技能習熟実験によって

- (1) 既報、反復練習のときの技能習熟方程式<sup>(1)(2)</sup>に含まれる実験定数の意義づけ<sup>(3)</sup>を再吟味し、併せて技能訓練の効果を明らかにする。
- (2) 人の素質的因子が技能習熟に及ぼす影響を明らかにする。
- (3) 職業訓練大学校学生(訓大生)と同附属総合高等職業訓練校生徒(総高訓生)との技能習熟の差を明らかにし、技能訓練改善について若干の提言を行なう。

なお、この研究にあたり、脳科学の援けで技能がはっきりした箇所が幾つかある。この種の研究に脳科学を導入することは非常に重要と考えるがゆえに、浅学非才を省すあえて、脳科学的に考えた「技能メカニズム試論」を付録に掲げた。